

【ICAT '97報告】**ICAT '97報告****◆ あるICAT裏方の雑感**

稲見昌彦

東京大学

(News letter VOL.2 ,NO.12)

1. はじめに

12月3-5日に冬のカラリと晴れた透き通るような空の下、東京大学にて開催されたICAT '97。運営に携わった裏方の一人として、個人的な雑感を述べさせていただきます。

今回で第7回を迎えることになったICATであるが、私がICATを初めて知ることになったのはICATと同時開催された第1回大学対抗手作りバーチャルリアリティコンテストに学部4年当時選手として参加したICAT '93にさかのぼる。

ところが、それ以降コンテストの方に参加者もしくは運営者として毎年関わってきたため、同時開催のICATは同じ時同じ会場にいながら身動きがとれず、結局一度も参加したことがない、近くて遠い行事であった。

従って、ICATというものがどのような雰囲気のある行事であるのか全くわからない状態であった。しかし、今回は会場を昨年までの幕張メッセから東京大学に移したこともあり、お世話になってきたコンテストのいわば親玉であるICATのお手伝いをする事となったのである。

2. 準備

まず、参加人数を推定し、会場、機材、必要人員を見積もった。このことは通常の学会の準備も同様であろう。前日までに、英語での案内地図、名札作成、ポスター貼り、袋詰め作業に、サービス用の飲み物の買い出し、そして看板の作成を学生で分担して行った。実は手作りVRコンテストの親玉であるICATも手作り国際会議であることを痛感した。

3. 発表について

発表の内容については別の報告があると思うのでこの場では割愛させていただく。内容以外の点では、招待講演者達のパソコンを使ったオンラインプレゼンテーションの完成度の高さは特筆に値するであろう。今後 VR学会の方でもオンラインプレゼンテーションがOHPに代わり主流になってくるのではなかろうか?

裏方側の問題点としては会場備え付けのビデオデッキでは3倍録画のビデオが再生できず、結局はこちらの用意したビデオデッキを利用する羽目になってしまったことがあげられる。

今後の参考として少しくどく述べさせていただくが、実は、この「3倍録画ビデオ問題」は実は他の会場でも何度か経験しており、いわゆる「お金をかけた」映像設費を備えた会場によく見受けられるようである。高価な業務用ビデオデッキには3倍録画に対応していない機種が多いためであると考えられる。また、トラッキングのずれにもシビアであるので注意が必要である。

そもそも学会や会議でのビデオに業務用のクオリティが必要なのであろうか?高価なばかりで結果として使いにくい設備をみることは、システムエンジニアの端くれとしては何とも悲しいことである。今後学会の準備や会場の画像機器選定に関わる方は是非心に留めておいていただきたい。

4. ビデオプレゼンテーションについて

ビデオプレゼンテーションが会議会場と別の建物だったためか人の入りはきわめて少なかった。例えばコーヒャーサービスをビデオプレゼンテーション会場で行うなどの工夫が今後必要であると考えられる。

5. レセプションについて

レセプション会場である山上会館が、会議会場とだいぶ離れた場所であり、しかも日没後の移動と言うことで案

内ポスターは役に立たないと考えられた。そこで、会場への順路に人員を配置することによって誘導を行った。

レセプション自体について述べると、ほかの国内の学会のレセプションでも言えると思うのだが、どうも、名刺交換会もしくは食事会となってしまう、なかなか研究についてディスカッションするきっかけがでにくいように見受けられる。といっても、立食パーティーで予稿集を持ちながら歩き回るわけにもいかない。

そこでビデオコンファレンスの客入りの悪さも考慮した上での提案なのであるが、例えばコンファレンスビデオをレセプション会場で(無声で)上映するというのはいかがだろうか? 両手が塞がっていても映像をみることはできるし、そのビデオを見ることによって話題のきっかけを作ることができるのではなからうか? また、コンファレンスビデオが研究をPRする絶好の手段となればビデオの質、量ともにアップすることも期待できるかもしれない。

6. 見学会について

大会3日目は東大インテリジェント・モデリング・ラボラトリー(IML)見学会が行われた。参加者はまずまとめて説明を受けた後、2班に分かれて5面の没入型多面ディスプレイCABINとその他の部屋のプロジェクトの見学を行った。

CABINは全身体験することができたが、誘導者とデモ人員が重複してしまっているため、一部誘導に不手際が

生じてしまった。今後は最初に順路を説明するか専属の誘導者を決めた方がよいと考えられる。

7. 最後に

以上ICAT '97は3日間の日程を無事終えたのであった。

「ある裏方の雑感」と言うことで散漫な文章を書き連ねたうえに、今後の参考になればと考え、僭越な意見もいくつか述べさせていただいたこと、ご容赦願いたい。

では、これでICAT報告を終わらせていただく。

と終わらせると記録の上では「ある」事件を抹殺することができたのであるがやはり以下の事件は自戒の意味も込めて報告せねばならないであろう。恥ずかしい話ではあるが。

ICAT 2日目。私の担当していた会場の吊り看板が落下してしまうというおきてはならない事故が起きてしまった。幸い看板は誰にもぶつからず、怪我人もなかったものの、看板はよりによって海外からの招待講演者の目の前に落下してしまったのだ。後ほど謝ったときには皆"very exiting!"とっていただけたのだがやはり取り返しのつかない失礼なことをしてしまったことは確かである。

この場をお借りして、関係各位に改めてお詫び申し上げます。

やはり準備は余裕を持って行うものである。(しかしこれが一番困難なのであるが……)